

福岡県立大学同窓会会報

発行日 平成12(2000)年7月15日
 発行者 福岡県立大学同窓会 事務局
 住所 福岡県田川市伊田4395
 福岡県立大学 同窓会事務局
 TEL・FAX 0947-42-2777

介護保険制度に思うこと!



同窓会会長 矢津田克子

数日前に九州は梅雨入りをしましたが、今日の空はとても晴れやかで、草木の緑がとてもきれいです。吹く風もこちよく気持ちを穏やかにさせてくれます。この同じ空の下、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。

大きな節目としての21世紀を目前にしながら、いまだに不況の風は吹きやまず、次々に起こる病める17歳の少年による極限の犯罪に、人ごととは思えない胸の痛みを感じる昨今でございますが、皆様にはお変わりなく、それぞれのお役目にお励みのことと思います。

福岡県立大学同窓会も、皆様のご協力のおかげで順調な歩みを続けております。

さて、今年最大の関心事は、4月からスタートした介護保険制度ではないでしょうか。

少子高齢化の傾向にあるこれからの社会に、介護は家族の責任だけではなく、社会全体で支えていく制度として必要なことだと思っておりましたが、正直なところどのような責任を持って、ニーズに応じた介護サービスをするのかは、漠然とした理解しかしておりませんでした。

ところが、最近テレビで頻繁に放映される在宅介護サービス会社のCMをみて、いったいこれはどういうことなんだと思っていたところ、ある雑誌にその会社のことが書いてあって、私は自分の頭の中を洗い直さなければ、理解できないのではないかと思います。

それには、最高株価7,499万円の見出しで始まり、介護保険は5兆円を超える巨大なマーケットで、そのビジネスチャンスを狙って新規参入の企業が後を絶たないとありました。2月から4月にかけて、その企業が広告に投じた資金は約30億円であること、そして、企業家の談として「10年以内に

1万拠点にする。そのとき100万人のケアをするようになると一人当たり12万円の計算で1兆5千億の売り上げになる。50年間は伸びるマーケットだから、本心から顧客満足度を最高にして、ちゃんとやっつけられる会社が一番儲かります」とあるのには驚いてしまいました。「福祉」と「儲かります」がイコールであるとは、私には考えもおよばないことでした。

更に、「これまでの介護サービスには公的なところが税金を使ってやる施しにすぎない」と言い、「介護保険導入によって、要介護認定を受けた利用者本人が自由にサービス提供事業者を選ぶことができる。これによって、今までのサービスを提供してきた特定の企業や医療・福祉団体は、顧客のニーズをつかみ、サービスの質を高める努力を迫られるでしょう。父親の介護を通して身をもって学び、理想的なのは“家族は愛を、介護はプロに”です」と述べています。

テレビのCMでは、かわいい女性がやさしい笑顔で介護の手を差し伸べています。それを見ると私は30数年前に肢体不自由施設に勤務していた頃のある少年の言葉を思い出します。彼はポリオの後遺症で、起床、洗面、着脱衣、排泄と日常生活の大部分で介助を受けなければなりません。かろうじて使える左手で字を書き、食事をすることができました。頭脳明晰で明るいおしゃべりは皆を楽しくさせ、誰からも愛される少年でした。

その彼が、排便の時は、特定の職員が出勤するのを待ってトイレへの移動を頼むのです。ある日、「先生が来るまでがまんしないで、看護婦さんもたくさんいるのだから、遠慮しないで頼みなさいね。」という、彼は「先生、僕はねえ、ボクを抱えてくれる手に、その人の心を感じるんだ。一日一回のことだけど気持ちよくしたいじゃ〜ん。」と照れて笑って言いました。私は見事な一発をくらって打ちのめされた思いでした。介助してくれる人なら誰でもいいじゃないかとは、彼の気持ちを無視した健康な大人の勝手な言い分です。何かにつけて人の手を借りなければならぬ彼が、子供ながらにどんなに気を使っていたことか。「手に心を感じる」と14歳の少年が教えてくれたこの言葉は、今でも私の教訓であり宝物でもあります。

たしかに、何かと忙しくテキパキと処置していかなければならない職員の手には「心」を伝えるゆとりはないかもしてません。しかし介護する者はどんなに忙しくても、思いやりの心、ゆとりの心など豊かな愛が伝わる手で、利用者の介護にあたってほし

いと思います。

儲かる介護ビジネスと愛の介護福祉が両立するの
かとても気になることです。

介護保険料3万数千円をすでに支払った者として、
高齢者の仲間入りをしようとしている者として、私
自身厳しく見極めていかなければなりません。新
しい介護福祉がよりよく発展するために、深く研究
し、正しく提言し、ご指導くださることを福岡県立
大学に強く期待するところです。

心の問題、社会の問題、

福岡県立大学長 保田井 進



〈とうとう緑になりました〉

17歳少年による主婦殺害事件、西鉄バス乗っ
取り事件など、少年犯罪が注目を引きます。いずれも
加害者から被害者への一方的な行動です。数年前か
ら少女の援助交際が問題になっています。「相手がよ
るこび、他人には迷惑かけないし、いいじゃない。」
というのが少女たちの理論です。河合隼雄は「援助
交際は、心にも体にも悪くない。しかし、それはた
ましいを著しく傷つけるのだ。」と述べたことでした。
(雑誌「世界」1997.3)

今、人間を全人的に理解し、発達や治療を考える
心理学者、医師たちは、身体と心と霊性の3つの働
きに注目しているようです。河合氏の上記の論文も、
身体、心とともに、たましいのことを言っているの
です。霊性とは心理的働きとは別の、その人を命あ
るものとして生かす、スピリットと言えるようなも
のです。暴力も、援助交際も本人自身のたましを破
壊するほどの危険な行為だということに気付いてい
ないところが問題です。

少年少女たちは、なぜこのような行動にでるのだ
ろう、今日の社会や子どもたちの置かれている家庭、
学校、社会の状況を反映しているのではないかと、昔、
炭坑では、小鳥を籠に入れ坑内に持ち込んで、小鳥
の様子で危険を察知したように、危険に敏感な弱い
生物が真っ先に反応したことを考えると、子ども達
の行動は時代の危機を知らせる警鐘なのかもしれま
せん。

これらの行動の原因に、双方向のコミュニケーシ
ョンの欠如と人格的な信頼関係の欠如が指摘されて
いるのです。親子、夫婦の人間関係、友だちや教師
と生徒の関係は、いつでも強い立場から、一方的な

指示、要求、命令、禁止が多く、弱い立場から発信
する表現、訴え、意見は無視され無関心に扱われる。
マザー・テレサも、最大の暴力は無視されることだ
と述べたことでした。

「いま、ここ」での自分自身の身近な人間関係に、
共感と双方向のコミュニケーションの回復が必要で
す。

レオ・レオーニの絵本「あおくんときいろちゃん」
(至光社)では、ひとりぼっちで孤独と不安になっ
たあおくんは、だいすきなきいろちゃんにあって、
うれしくて、うれしくて、二人はとうとう緑に
なりました。出会いには対話が伴います。それは双
方向性のコミュニケーションです。出会いは二人を
変えます。孤独と淋しさは、交わりの喜びに、不安
といらだちは、安心と希望に、自己不信とあせりは、
自尊感情と意欲に変わります。対話によって、青色、
黄色が緑に変わるといふことはそういうことです。
私たちの「いやし」と「育ち」にはそのことが必要
なのでしょう。

〈しろいうさぎとくろいうさぎ

- 短大・大学の発展としての看護学部開設 - 〉

今、大学の北側の隣接地に土木工事が進んでいま
す。2003年に開設予定の看護学部を備えて看護学部
棟、管理棟や500人収容の講堂を含む学生会館、学生
の厚生施設、グラウンド等の配置の基本計画はでき
たところです。

私は、ウィリアムズの絵本「しろいうさぎとくろ
いうさぎ」(福音館)を思いうがべるのです。緑の森
の美しさ、こずえの葉のそよぎ、草のにおい。そこ
に住む白いウサギと黒いウサギ。いま、造成をして
いる土地の地下は、かつての炭鉱の跡です。多くの
人々が真っ黒になって働いて掘り出した石炭が、日
本の産業を支え、軍事力のエネルギー資源になって
いました。そのために地盤沈下が起こり、農地とし
て耕作ができなくなっていたのです。その鉱害復旧
の後、この土地は大学のキャンパスになって、白衣
で働く看護婦(士)、保健婦(士)、助産婦、養護教
諭が育ち、社会に巣立っていく土地に変ぼうするの
です。かつては黒いウサギたちが汗水を流して社会
を支え、今、保健、医療、福祉、教育、精神的な対
人援助に働く白
いウサギたちが
育ち、世に送り
出される。緑豊
かなキャンパス
になって新しい
時代を担ってい
く。皆さんの母
校は、そのよう
な歴史に関わっ
ているのです。



同窓会名簿作成にご協力を!

昨年6月の幹事会にて、名簿作成委員6名を選出し、名簿作成委員を中心に名簿作成に取り組んでいます。12月には、第1回調査カードを会員の皆様宛に送付いたしました。現在までに、1,040余名の会員の方から、返信頂きました。また、同窓会事務局で確認できていない方々の住所もお知らせ頂きました。ご協力ありがとうございます。

返信頂いた調査カードを元に只今名簿を作成しています。

今後10月に第2回調査カード(最終確認)の送付を予定しています。住所等記載事項に変更のない方も、記載事項を確認の上、必ずご返信下さいますよう、お願いします。調査カードは名簿購入申し込みも兼ねております。名簿購入希望の方は、購入欄に記入の上、ご返信下さい。

名簿発行は2001年3月を予定しています。調査カード返信後に、記載事項の変更がありましたら、速やかに同窓会事務局までご通知下さい。

今回の同窓会会報発送時にも、住所確認のできていない方のリストを作って同封いたします。同期の方などお知り合いの方の住所をお知らせ下さい。

○同窓会事務局へのお問い合わせ

同窓会専用のFAX電話を設置しています。同窓会事務局へのお問い合わせは下記の電話番号までお願いいたします。

現在、事務局作業日(毎週金曜日10:00~17:00)には電話によるお問い合わせを受けておりますが、金曜日以外は留守録設定となっております。**お名前・卒業期・お電話番号**を留守録メッセージに残していただければ、こちらからご連絡させていただきます。FAXの場合はいつでもご送信下さい。



昨年度寄付金について

99年度卒業生(県大5回生)より卒業パーティーの残金(77,737円)を同窓会宛に寄付いただきました。皆様の思いに感謝し、厚く御礼申し上げます。

また、昨年度年会費徴収のうちに同窓生6名の方から、17,000円をご寄付いただきました。

頂いた寄付金は同窓会活動のため有意義に活用させていただきます。

第18回同窓会総会報告

平成11年8月8日、福岡県立大学第18回同窓会総会が春日市クローバプラザと福岡市ステーションプラザにて開催されました。当日の出席者は会員80名にのびりました。

総会では、来賓として、保田井県立大学学長、安藤前学長をお迎えし、1997年度98年度事業報告・1997年度決算報告・監査報告の承認、1999年度2000年度事業計画及び予算案が審議の上、承認されました。

役員改選として、5期10年間の長きに渡り副会長として同窓会を支えていただいた内田ちづる氏が三役を退くこととなり、後任として、榊京子氏(社会保育短期大学3回生)が推薦され、承認を受けました。内田氏には短大から4年制大学移行に伴う取り組みに始まり、県立大学同窓会との一本化への実現、県立大学同窓会としての基盤作りに、大変ご尽力いただきました。

総会終了後はクローバプラザ内の施設見学を行い、懇親会会場へと移動し、会食と歓談の一時を過ごしました。懇親会には、県大:森山先生、植田美佐恵先生、上田毅先生に加え、社保短時代懐かしの内海先生、俵先生もおいで下さいました。

今回同窓会開催は養成所1・2期、社保短14・15期県大2・3期の方々に当番期としてご協力いただきました。当日の受付・総会・懇親会の司会等を分担いただき、万事滞りなく進行いたしました。又、託児を県立大学在学学生にお願いしました。



懇親会アルバム



県大自治会執行部



森山先生



安藤前学長



保田井学長を囲む県大生&県大卒業生



保母養成8期



内海先生・植田先生・俵先生



社保短15期福祉科(当番期)



三役&県大卒業生



語り風景!



保母養成所1期&3期



保母養成所2期(当番期)



総会当番期アラカルト 楽しんでますよお~!



保母養成所6期



なごみの笑顔



養成12・13期社保短2期



やあ～しばらく！



養成5期&養成11期&社保短5期



社保短14・15期



懐かしのあの頃が戻ってくる！



社保短15期



事務局受付中



癒しの笑顔



社保短9期



保母養成4期



県大自治会長



上田先生



おいし〜い顔!



社保短2期・7期・22期



県大当番期&県大1期



託児中





○生涯福祉研究センター

「おもちゃとしゃかん・たがわスタート！」

生涯福祉研究センターでは、平成2000年度新事業として「おもちゃとしゃかん・たがわ」を始めることになりました。

これは、発達に遅れのあるお子さん達や児童関係諸機関に、療育的なおもちゃの貸出しをすることが主な目的です。しかし、現在3人体制のセンター職員ではこのような事業を進めることは不可能に近い状態です。

そこで、本学学生さん達を中心に社会人～高校生～専門学校生も参加している「おもちゃとしゃかん・たがわボランティアグループ」の皆さんがおもちゃの製作や貸出業務等などに協力してくれています。こうして、ボランティアグループの方たちと手をつなぎあいながら、生涯福祉研究センターは子育て部門にも力を入れていこうと思っています。

【センターからのお願い】

ご家庭で眠っているフェルトや刺繍糸、マジックテープなど手芸用品がございましたらいただけないでしょうか？これらはかなり高価で、購入するには資金が不足しています。



○地域開放講座・公開講座について

県立大学は、地域社会に開かれた大学として、身近な学問領域で広く地域の皆様との交流を目指し、毎年様々なテーマで公開講座を開いています。

平成12年度 福岡県立大学公開講座Ⅱ

私たちの暮らしに外国語があふれ、外国籍の人々が数多くなりました。グローバリゼーション（世界

化）はますます進行するでしょう。筑豊は石炭で栄えた当時から、多くの外国籍の人々が働く国際化社会でもあったのです。ことばは、その国の文化をもっとも表している道具でもあります。そして基本的な言葉を知れば異文化コミュニケーションもでき、多文化共生社会も可能となります。この公開講座では、暮らしに大切な言葉とその国の文化を知ることにより、国際化時代を生き抜く知恵を身につけます。

テーマ：【異文化とことば ～ハロー・ニイハオ・アンニョンハセヨー～】
日時：6月10日（土）～7月22日（土）
全7回 14：00～16：00
講座場所：県立大学

6月10日（土）

開講式 田川市長
「異文化とことば ～コリア語を中心に～」
福岡県立大学 教授 西岡 健治

6月17日（土）

「マイ・ベェン・ライ」の国 ～タイランド～
福岡県立大学 講師 稲葉美由紀

6月24日（土）

「中国文化と日本文化の間で」
福岡県立大学 助教授 ハオ 暁卿

7月1日（土）

「アラビア語とイスラーム文化」
福岡県立大学 教授 田中 哲也

7月8日（土）

「英語の歴史と成立」
(History and Making of English Language)
福岡県立大学 教授 JOHN SCOTT

7月15日（土）

「アメリカ英語の発展」
(Development of American English)
福岡県立大学 教授 林 勲

7月22日（土）

「フランス文化とグローバリゼーション」
福岡県立大学 教授 平野 泰朗
閉講式 修了証書授与
福岡県立大学 学長 保田井 進

平成12年度 福岡県立大学公開講座Ⅲ

21世紀を目前にして、現代の大量消費・大量廃棄型の経済社会システムをどのように変革すべきか、という方向性およびその具体化を中心に、環境問題の現状をふまえた上で地域の立場から、みなさんと考えていきたいと思っています。

テーマ【共に創ろう！「環境の新世紀」】
日時：9月30日（土）～11月25日（土）
全8回 14：00～16：00
講座場所：八女市

- 9月30日(土)
「身近な環境問題と未然防止に向けて」
福岡県立大学 教授 久永 明
- 10月 7日(土)
「地球環境問題を地方から考える」
県保健環境研 副所長 北森 成治
- 10月14日(土)
「国際政治の視点から見た環境問題」
福岡県立大学 助教授 ハオ 曉脚
- 10月21日(土)
「最近の水質汚染と環境にやさしい防止技術」
県保健環境研 廃棄物課長 徳永 隆司
- 10月28日(土)
「ダイオキシン類による環境汚染とその対策」
県保健環境研 専門研究員 松枝 隆彦
- 11月11日(土)
「環境ホルモンによる環境汚染と生体影響」
九州大学医学研究員 助手 大村 実
- 11月18日(土)
「まちづくりと環境のリンク」
福岡県立大学 教授 豊田 謙二
- 11月25日(土)
「環境の新世紀」に向けた地方からのメッセージ」
福岡大学 教授 松藤 康司

平成12年度 福岡県立大学公開講座IV(案)

大学は、少数のエリート教育から大衆化の時代を経て、今日、全国に散らばる大学の数は600校を超えています。少子化に伴う進学年齢人口の減少とともに、大学は再編の時代を迎え、高等教育のあり方をめぐる論争が注目されています。

この中で、特に地方に立地する大学においては、地域との関係について新しい試みも見られ、地域文化、生涯学習、産業振興など、幅広い分野に地元の大学の寄与が期待されています。また、学生の存在は、若年人口の減少する地域においては、活性化への期待がうまれる一方で、居住をめぐる問題もあることは否めません。このように、地域社会と大学の関係は多様です。この講座では、生涯学習の一環としての本学の公開講座をどう考えていくのかという議論も含め、いくつかのトピックについて、他大学の取り組みも取り上げて、多様な視座からの議論を紹介したいと思います。

テーマ【地域と大学のネットワーク】
日時：10月7日(土)～12月2日(土)
全7回
14:00～16:00
講座場所：福岡県立大学

※詳細についてのお問い合わせは県立大学：教務課まで(TEL0947-42-2118)

※公開講座等の情報は県立大学ホームページでもご紹介しています。<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/>

大学教員動向

平成11年度からの先生方の簡単な動向についてお知らせいたします。

<退職・転学された先生>※かっこ内は在職期間です。

阿部 洋 教授 (H4.4.1～H12.3.31 県大)
木下 謙治教授 (H10.4.1.～H12.3.31 県大)
乗永 昌子助手 (S44.5.1～H6.3.31 社保短
H4.4.1～H12.3.31 県大)
植田 美佐恵教授 (S53.4.1～H6.3.31 社保短
H4.4.1～H12.3.31 県大)
平岡 蕃 教授 (S62.4.1～H6.3.31 社保短
H4.4.1～H12.3.31 県大)
久保 美紀助教授 (H9.4.1～H12.3.31 県大)

<新しく着任された先生>※かっこ内は着任日です。

門田 光司 教授 (H12.4.1)
高間 満 助教授 (H12.4.1)
稲葉 美由紀講師 (H12.4.1)
藤澤 健一 講師 (H12.4.1)

訃報となりますが、昭和42年4月1日から昭和59年3月31日まで社保短にご在職なされた、江口 保之先生が2000年5月死去されました。ご冥福をお祈りいたします。

昭和42年より昭和51年まで社会保育短期大学に在職なされた、嵯峨山 善信先生(美術担当)の遺作展が行われます。先生は一水会美術協会会員として作品を発表されていましたが、ご逝去から7回忌にあたり、遺作展開催の願いが実現の運びとなりました。遺作展は社保短卒業生をはじめ、先生を偲ぶ方々による実行委員会開催です。

遺作展の開催
また、実行委員会への協力等のお問い合わせは

早川 とも子
(社保短1期)
北九州市若松区
上原町 7-4
TEL

093-771-1071



県大生の就職状況

平成11年度卒業生の就職状況は、3月31日現在、就職希望者104名のうち、就職者88名、(就職率84.6%)で、前年同期に比べると4.6ポイント上昇している。

(県立大学学生課調べ)

就職先としては民間企業・病院・社会福祉施設・公務員・その他となっている。

平成11年度卒業生就職状況一覧表

	卒業生	民間企業	病院	社会福祉施設	公務員	大学院	その他
社会学科	52	29		1	3	1	
社会福祉学科	47	6	6	15	2		3
人間形成学科	51	16	2		4	4	1
計	150	44	8	16	9	5	4

在学生・卒業生への求人情報提供につきましては、同窓会活動として取り組んでいます。職場や関係機関での求人情報がありましたら、県大学生課まで、是非ご連絡ください。

TEL 0947-42-2118 (福岡県立大学 学生課)

サークル紹介

○県大硬式テニス部

私たち硬式テニス部は現在、1年生9名、2年生8名、3年生10名の計27名が活動しています。

活動は水曜日と土曜日の週2回で、主に基本的な練習や試合形式の練習をしています。大会にも積極的に参加し、去年は良い結果を残すことができました。部員の大半は大学からテニスを始めた人達なので個人差はありますが、部員全体が一人一人それぞれの目標を持って活動に参加し技術の向上に努めています。

また部全体を通して先輩・後輩のけじめをつけながらもとても仲の良い、チームワークのある部活動だと言えます。

また毎年五月に飯塚市で開催される国際車イス大会にはボランティアとして部員全員で参加し、テニスというスポーツを通して様々な人達と出会



い貴重な経験をしています。

これからも皆で力を合わせ、活気のある部活にしていきたいと思っています。



在宅介護支援センターとは?

今回は、在宅介護支援センターについて伺ってみました。お答え下さったのは、在宅介護支援センターに勤務されている県大2回生 岩佐博之さんです。

Q: 在宅介護支援センターとは?

A: 在宅介護のための総合的な福祉サービスを行うセンターです。本格的な高齢化社会の到来を目前に控えて、高齢者福祉対策として施設ケアとともに在宅ケアの推進がきわめて重要となっています。さまざまな在宅福祉サービスが実施されている中で、「在宅介護支援センター」(以下支援センター)は、平成2年度からスタートした国の「高齢者保健福祉推進10か年戦略(ゴールドプラン)」の一つとして誕生した制度で、在宅福祉のキーステーションの役割を担っています。在宅でねたきりや痴呆、からだの弱い高齢者をお世話している方からの相談を受けたり、必要に応じてサービスの申請手続きのお手伝いを行う、在宅サービスの第一線機関です。

Q：実際に相談した方は、どんなサービスが受けられるのですか？

A：介護用品の展示・ご紹介・具体的な使用方法の説明、介護に関するさまざまなご相談（電話・面接・訪問）、在宅介護の方法等についてのアドバイス・訪問指導、保健福祉サービスのご紹介・申請手続きのお手伝い、高齢者向け住宅の増改築・改造についてのご相談などです。

Q：支援センターはどんなところにあるのですか？

A：支援センターは在宅の介護者たちが、いつでも必要に応じたサービスが受けられるように、保健・福祉サービスのノウハウを持ち、終日機能している特別養護老人ホームや老人保健施設、病院などに開設されています。

Q：支援センターにはどのような方が勤めていますか？

A：支援センターには、ソーシャルワーカー又は介護福祉士の福祉関係職員と、保健婦又は看護婦の保健医療関係職員の2名が、常に相談者として配置されています。保健・福祉の専門家が、地域と密着した、在宅福祉の総合的なアドバイザーとして、24時間体制で介護者の応援をする仕組みになっています。又、町内会、婦人会、老人クラブなどの役員の方や民生委員、愛育委員といったその地域で生活し、地元の状況をよく知っている人たちの中から、在宅介護相談協力員を選び、介護者と支援センターとのパイプ役として、身近な所で相談ができるようになっています。

Q：支援センターでソーシャルワーカーとして働くには、資格が必要ですか？

A：先の質問であったように、支援センターで働くための資格としては社会福祉士や保健婦、看護婦、介護福祉士、介護支援専門員の資格が必要であると思われる。（ソーシャルワーカーの方もいらっしゃいますが、今後支援センターでの就職を希望するならば、社会福祉等の資格は必須と個人的に感じています。）

これまでには、経験豊かな方等を採用する機会が多かったようですが、この4月以降は支援センターでの人員配置や補助金等が大幅に改正されたこともあり、非常勤等の採用形態もあるようです。



「ありがとうの気持ちいっぱい」

山田 泰子

社保短の最後の1年から入り、「障害を持つ自分の立場で社会福祉を学びたい」と聴講生として県立大学で3年間過ごさせて頂いてから、聴講をやめて早4年になりました。

私は脳性マヒという障害をもっています。車椅子使用で、言語障害も持っているので、音声の出るトーキングエイドという50音を書いた文字盤を指さして会話をします。

小・中学、高校と地域の学校に通いつづけました。そして大学では平岡先生や町井先生との出会いがあり、回りの学生さんたちともとても親しく過ごすことができ、恵まれた環境だったと、今思い出すと感謝でいっぱいです。

この度、私は本を出版しました。今までの学生生活、日常生活の中で思ったこと叫びたかった事などを記録した段ボール二箱分の日記から削りに削って出来上がりました。他の人と話す時の私の心の叫び「ねえちょっと聞いて！」がその題名です。もちろん大学へ行っていた時のこともありますし、いじめられ落ち込んでいた時のことも書いてあります。今同じ状態で苦しんでいる子供たちや仲間、お父さんお母さんにも、少しでも励ましの力になればと思っています。そしてもっと多くの出会いで自分の「夢」を飾っていこうと思います。

よろしく・・・・・・・・。

2000.5.24

「ねえちょっと聞いて！」

ー脳性マヒ女性のトーキングエイド・
車イス奮闘記ー

本価（税込み）¥1,600

※この本は自費出版ですので、一般の書店には置かれていません、ご注文・お問い合わせは同窓会事務局までご連絡下さい。

先生方からのメッセージ

<楽しかった院生諸君との交流>

元福岡県立大学 教授 木下 謙治



県立大学での在任期間は2年間と短かった。平成12年4月から、筑紫女学園大学文学部に勤務している。私は名誉教授の称号をいただいた山口大学を除けば、他の幾つかの大学での勤務年数はきわめて短かった。県立大学もその一つである。たとえば言えば、旅人がしばし草鞋をぬいだところとでも言えようか。旅人の感覚で言わせてもらえば、新鮮に感じたところも、淋しく感じたところもある。前者について言えば、大学と地域の双方が、かなり積極的に関わろうとしている点が印象に残った。後者については、小規模な大学でありながら、小規模校がもつメリットを教育の場で生かすきれてないと思うことが多かった。もっとも大学院は別である。院生諸君とのゼミや人間的交流は実に楽しかった。それは私の旅の懐かしい印象として心に刻まれている。

同窓生の声・・・

<梅ちゃんたすけて>

保母養成所 2期生 梅崎 昭子

保母養成所に入った当初、私は初めて家を離れたこともあり超内向的でしたが、今は亡き村上先生が、同郷のよしみで佐賀弁を交えて接してくださり、だんだんと学生生活にもなれました。グループの友人とも楽しい2年間を過ごすことができました。私の一番苦手な理数系の講義がなかったことも、私には温かくて優しい学校でした。心に染みる先生方の講義がなつかしく思い出されます。

卒業後、35年間保母として、児童福祉施設でたくさんの子供と接し、心の奥の悲喜こもごもを観察してきました。退職後は、そのキャリアを生かし、いまのハイテク時代にどん底で苦しんでいる子供たちを何とか救ってやりたいと、一昨年「梅ちゃんたすけて」を出版しました。現在は、児童福祉のボランティアを主催し、悩める親子からの手紙相談などを受け付けるサークル活動を続けています。私は、児童福祉をライフワークとし、生涯関わり続けたいと思っています。



<養成所の思い出>

保母養成所 5期生 武田 静子

私は昭和36年結婚後、福岡を離れ、横浜の住民となりました。



その頃は保母の社会的地位は低く、働く女性にとり厳しい時代でした。しかし私は、保母の仕事が忘れられず、出産退職をしつつ、

二児をもうけました。妊婦の体で出産一週間前まで勤務と、厳しい労働条件の中で誕生した娘が、今は保育士として保育園に勤務しています。昨年秋、養成所時代の親友全員が、定年退職をした祝いに、数名で旅行をしました。その間は養成所の思い出話で持ちきりでした。

その頃の講義はほとんど時間講師でした。講師の都合で時々休講になりましたが、「休講」と耳にし、喜びもつかの間でした。金槌、のこを持ち、スノコ作り、ペンキ塗り等々、いつも予定されていました。お陰で保育園に勤務した折は、一日に保母、用務、給食が変わっても苦にならず、同僚から調法がられた養成所出身の保母でした。

楽しかった一つには学生全員参加の野外キャンプ、松風園と合同の運動会があります。

中でも寮生活は特に印象に残っています。炊事当番は、初当番の一年生にとり先輩の偉大さに驚かされました。朝・夕食作りは、薪を割り、かまどの上に大鍋、ご飯から副食まで、約70名分位を四、五名の炊事当番が作ることでした。試験中の当番は悲劇でした。

夜の門限は厳しく、ある夜数名が窓から寮を抜け出し、側の海岸に「仲秋の名月」を見にと、しゃれこんだ結果、その夜は寮会が徴集され夜更けまで寮中が大騒ぎとなったこと等々、話は尽きませんでした。

養成所の二年間は学問、理論はともあれ、私達福祉に携わる者にとり最も大切な人間関係の基本を培う大切な場であったことを、久々再会した友と共に再認識した楽しい楽しい旅でした。

<国分の学童保育>

保母養成所 8期生 堤 典子

卒業40年過ぎたことに少々驚いています。昨年国分市承認第一号の学童保育の運営と指導をさせてもらっています。バプテストキリスト教会内の敷地にプレハブを建て、二つの小学校の1年から3年までの子供を対象にして現在18名の児童が来ています。23年前急に、教会に行こうと誘われ、働きながら神学校に行き牧師になった主人と共に、北九州に二年、鹿児島国分に三年過ぎました。

学童保育は、保護者の話し合いで、事を決めて行き、他の2人の指導者とローテーション組んで学校から帰った後の生活を見ているのですが、両親とのつきあいや子供達の明るさの中で毎日を過ごすことが感謝です。

教会の事務的な仕事もあり、時間的にやりくりを

上手にしなければならぬことや、思い煩いによる心配は多々あるのですが、学生時代に色々な学びをさせてもらったこと、一つ一つが、土台となり、すべて無駄はなかった。又、新たな勉強になっている事が感謝です。



<五月の連休>

保母養成所 14期生 松野 トミ子

女性の就労形態の多様化や社会進出、少子化、地域子育て支援等も加わり、保育園の果たす役割も拡大されている。地域の方々に役立つ保育園として、意識の変革を求められ、職員会議では、「地域のニーズにそえる保育園づくり」という言葉を耳にする。「育児の市場化」という言葉も耳にする。

しかし、「子どもの立場」ということになると、もう一つ細かに見つめる余地があるのではと思うのは私だけであろうか。

五月の連休中に驚きと衝撃でテレビに見はまったバスジャック事件、その前の愛知県の主婦殺害事件、ともに17歳の若者の犯行である。

「何が足りない、育っていない、何だろう？」

「幼児期の育ちは？人の温もりは？」

今こそ、「子どもの育ち」について大人達は冷静に自分の事として考えていかなければならないと思う。子どもの心の善性を信じ、心豊かに育ててほしいと願う。休息をとりながらも考えさせられることの多かった連休でした。



<あらゆる体験の元>

社保短 3期生 西木 陽子

私が県立大の前身であります社保短を卒業したのは、昭和四十六年、早いもので三十年近く過ぎようとしています。在学中は、福岡市内の自宅から片道二時間程かけて通っていました。伊田の駅に着くとひたすら走りました。目的はピアノ個室を確保する為。厳しかったピアノレッスンに涙したことも今となっては、なつかしい思い出です。

昭和五十年に結婚の為、埼玉の方に移りました。そのころTVで「青春の門」の放映がありました。

あの時のままの香春岳が夕日に映え、ブラウン管いっぱいに広がっていました。なつかしさに胸がいっぱいになり、主人が帰宅したのにも気付かず画面に見入っていたことを思い出します。

卒業以来二十八年間、保母の仕事をしてこれたのはただ「運が良かった」の一言に尽きるのですが、一番の収穫は、歌って、踊って、お芝居をして、絵を描いて、モノを創りだして伝承遊びを受けついで……とあらゆる体験を、子供達と一緒にできたことです。子供達との出会いは、いきなり「転」で始まったり、「結」が見つからないまま、淋しい別れになったりと、自分の若い時の仕事ぶり等を思い出すと、ただただ申し訳なく、恥じ入るばかりなのですが、そんな中でも、私は数え切れない程の「ありがとうございました」という言葉をいただきました。

それやこれや、社保短での二年間無くしてはあり得なかった事を思うと、今更ながら、学業とは、修るべきもの資格とは、取得すべきものと感じています。

今、夢にまでみた”専業主婦”となり、鋭気を養いつつ新しく見聞を広めたく、少しずつ努力している日々です。写真は、最近、アフリカ・ジンバブエを訪れた時のもの

です。どこに行っても誰とでもすぐフレンドリーになってしまふ今の私ですが、学生時代に教えていただいた、「福祉」の精神を持ち続けているからと自負しています。



<ミレニアムベビーです>

県大1期生 丸野 亜希子(旧姓 梶原)

平成10年に結婚し、仕事を辞めて山口へ行きました。生まれも育ちも北九州の私は、初めて他の地に足を踏み入れました。主人は転勤族なので、色々な所へ行けると思うととても楽しみです。今年の1月には娘が生まれ家族3人となりました。(ミレニアムベビーです!)最近、首も座ってきて、寝返りもうつようになり、一緒に転がって遊んでいます。早くしゃべって「お母さん」と呼んでほしいなと思っています。

主人と知り合ったのは、大学時代のアルバイト先なので、是非、田川に連れて行きたいと思います。これからも家族仲良く楽しくやっていきます。写真は娘、約1ヶ月です。

